【海軍時代の写真～斎藤實次官～】

秋も深まり、冬の足音が近づいてきました。

当館には写真約 2,500 枚、他アルバム 28 冊を所蔵しておりますが、今月はその中から「海軍時代の写真～斎藤實次官～」を“イッピン”としてご紹介したいと思います。

明治 31（1898）年 11 月、第２次山県有朋内閣が成立し、それまで海軍大臣であった西郷従道は内務大臣となり、後任に山本権兵衛中将が大抜擢されました。このとき、数え 41 歳の實は、山本権兵衛の下で海軍次官に就任します。今からおよそ 130 年前の出来事です。

10 日朝、實の自宅に至急本省に赴くよう電報が届き、ただちに内閣を訪れ山本と面会。次官に就くよう打診されます。

歴代の次官は、いずれも少将で就いており、實は前年に大佐になったばかり。佐官（少佐・中佐・大佐）で次官になるのは前代未聞のことでした。次官は大臣に次ぐ権限を持つ職級です。（その後、制度が変わり、次官は中・少将に限ると定められます。）實は大佐で次官になった唯一の人物となりました。

二人の間柄は、海軍兵学寮時代までさかのぼり、卒業後のアメリカ留学時には、山本氏が伊東祐亨（ゆうこう）（別称：すけゆき）海軍大佐（のち元帥）にしたがい「浪速」艦回航のためイギリスへ行くとき、ニューヨークで實が万事あっせんしたことがあり、他にも業務において度々顔を合わせる機会がありました。

特に二人の親密さが増したのは、明治 22（1889）年新艦「高雄」に共に乗船した時です。山本氏が艦長心得として、實が砲術兼水雷長、分隊長として乗組み、３ヶ月余り艤装（ぎそう）※1の仕事に携わりました。翌年には山本氏が艦長、實が常備艦隊参謀として「高千穂」に乗り、９ヶ月間艦上生活をともにしています。その後も春子との仲介や、広島大本営時代の海軍大臣副官と侍従武官という関係性から、次官就任の打診の背景には長年の親交による實への信頼がありました。山本の後を受け、海軍大臣となり長らく海軍の舵取りを担うことになります。



海軍次官として
42 歳の頃



海軍次官として
47 歳の頃

※１...船体に各種設備を装備すること。

参考文献：「斎藤實伝」（松田十刻著、元就出版社、2008 年）、
「齋藤實追想録」（斎藤實元子爵銅像復元会編集、1963 年）